

はじめに	1
第2刷の発行に際して	4
I 体育の任務と身体	11
1. 体育における主要目標 —— 学び、教えた学習指導要領の変遷から	11
2. 身体的能力の発達と人間形成	15
(1) 人格の発達と身体 —— 「教育、身体、体育」のかかわり	15
(2) 身体的基礎能力の発達と人間形成	17
(3) 身体の自治能力を育てる人間形成	19
3. 身体認識で結びつく体育と保健 —— 〈保健体育〉の教科指導の任務	20
(1) 体育・保健の独自性と連帯性	20
(2) 体育では身体をどう教えるのか	21
(3) 体育と保健でからだづくりの主体形成	23
II 体育の教材・授業づくりとからだづくり	25
1. からだづくりの視点から教材づくり	25
(1) スポーツ愛好者の身体要求	25
(2) 身体とスポーツを統一する教材観	27
(3) 体力・運動能力の到達目標	28
2. 運動と身体の科学を教える授業づくり	31
(1) 運動のしかたを教えない体育の問題	31
(2) 運動の理解を身体の科学的理解に	33
(3) 体育文化の学習を身体の学習と統一	35
3. 全員が参加できる一体感のある授業づくり	36
(1) 体育と差別	36
(2) 「マラソン」と「短距離走」	37
(3) 変形ソフトボール	39
(4) 一人ひとりを見る	40

(5) 型にこだわらないサッカー	42
(6) 実践研究姿勢への提言	44
4. 身体認識を深める体育実践——佐々木賢太郎の「書かせる」体育	46
(1) 日本にしかない体育の認識教育	46
(2) 多面的な佐々木実践	47
(3) 生命を大切にせる教育——環境変革を展望するからだづくり	49
5. 体育と体力づくり——ドイツの健康教育からの示唆	50
(1) ドイツの「体育」における健康・体力の位置づけ	50
(2) 健康教育としての体力づくり	51
(3) 最近のドイツにおける体力づくり	53
(4) ドイツの子どものスポーツ意識	53
(5) スポーツと健康をめぐる理論・実践問題	55
Ⅲ 学校教育としての運動部を考える	58
1. 運動部と地域の「子どもスポーツ」の体質	58
(1) “過熱”する運動部活動	58
(2) 「子どもスポーツ」が抱える問題	60
(3) 運動部と「子どもスポーツ」発展のために	62
2. PTA活動をとおして見た運動部活動	63
(1) 子どもの部活動に対する期待と不安	63
(2) 親の部活動に関する意見分布	64
(3) 教師の部活動に関する考え	66
(4) “教育の論理”で部活づくり	67
3. 運動部活動と「子どもスポーツ」の功罪	68
(1) 運動部小史と運動部研究の動向	68
(2) スポーツの教育機能の二律背反性	70
(3) スポーツ組織と指導者の問題	71
(4) 健全な「子どもスポーツ」発展のために	71
(5) 運動部の現状から国民スポーツの発展を考える	72

IV	遊び・スポーツとからだづくりの地域環境づくり	74
1.	「昔の子ども」のイメージで子どもを育てる	74
	(1) 遊び不足は“人間離れ”をもたらす	74
	(2) 昔の子どもの生活と遊び	75
	(3) 遊びに代わるスポーツの創造	77
2.	小学生の地域スポーツ	78
	(1) 活動の現状	78
	(2) 小学生の地域スポーツにも問題が多い	80
	(3) 小学生のスポーツ活動のガイドライン	81
3.	スポーツ・ボランティアの活躍 ——震災の被災地における子どものサッカー教室	82
4.	遊び・スポーツ環境の変革を提言できる子どもに ——関東大地震当時の子どもの意見表明	84
5.	学校と地域を結ぶからだづくりの実践	86
V	子どもの〈からだと心〉と教育の課題	89
1.	社会的存在としての子どものからだ ——今日を予見した1970年代の分析	89
	(1) 1970年代は教育学に“からだ”が位置づく時代	89
	(2) 発育権・発達権の侵害	90
	(3) 子どものかからだの現状	91
	(4) からだづくりの教育研究運動の前進を	97
2.	新しい心身の異常の出現 ——震災後遺症	98
3.	保健室から子どもの〈からだと心〉を見る ——養護教諭の教育活動と体育のかかわり	99
	(1) 〈からだと心〉をリアルに把握する保健室	99
	(2) 保健室来室者の動態傾向	100
	(3) 保健室来室理由	101
	(4) 保健室における相談活動	103
	(5) 「保健室登校」	105
	(6) 体育教諭と養護教諭の連携	107

4. 格差社会と子どもの健康	108
(1) 発育と格差	108
(2) 格差社会でゆがめられる意欲	109
(3) 足立区の子どもの発育と健康	110
(4) 子どもの健康の立場から格差社会を監視	112
VI 体育教育から〈発達と教育〉の立場へ	113
1. 差別のない教育——障害児とのふれあいから	113
(1) 障害児の生活と体型・運動——健常児も障害児化	113
(2) 体育と生命、平等	114
2. スポーツ権の確立と学校の体育——震災からの教訓	115
(1) スポーツ施設の復旧は後まわし	115
(2) 意外に早いスポーツ再開	116
(3) 国民のスポーツ権確立のために	117
(4) 被災地における体育授業・運動部活動の教訓	118
3. 地域に根ざす平和教育	119
(1) 体育教師論	119
(2) 武士の倫理観と「スポーツマンシップ」「フェアプレイ」	120
(3) 体育と保健の素材	122
(4) 子育て・教育論	123
(5) 戦災・震災と平和	126
(6) 地域から発掘する平和教育素材	127
4. 国際交流教育の展望	
——第一次世界大戦中の青野原俘虜収容所(兵庫県)ドイツ兵捕虜の	
スポーツ活動	129
(1) 強制労働のない生活と文化・スポーツ	129
(2) スポーツ活動の展開	130
(3) スポーツの地域交流・学校交流	131
(4) 地域に根ざす国際交流教育	134

初出一覧 135

あとがき 137